

國學院大學學術情報リポジトリ

シニャックの著作による主張と批評の比較検討

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2025-05-23 キーワード (Ja): 新印象主義, ポール・シニャック, 『ウジェーヌ・ドラクロワから新印象主義まで』, 批評, ジョルジュ・スーラ キーワード (En): 作成者: 木村, 太紀 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.57529/0002001675

論 文 要 旨

学籍番号	213315	氏 名	木村 太紀
論文題目： シニャックの著作による主張と批評の比較検討			
<p>本論文は、新印象主義の画家ポール・シニャックによる著作『ウジェーヌ・ドラクロワから新印象主義まで』を焦点に、シニャックが著作で見せる戦略性の明示を目的とする。多くの先行研究では、その戦略性についてシニャックによって歴史記述が行われた文章とロマン主義の大家であるウジェーヌ・ドラクロワを援用した点から明らかにされている。しかし、批評との関連性への指摘はあまり明確に行われてはいなかった。そのため、シニャックが執筆当時に向けられた批評を調査し、その批評とシニャックの著作との比較検討を行った。シニャックの著作は、明確に批判に反論する形が取られていた。批判対象であった新印象主義の技法に由来する画家の独創性の喪失に関して、シニャックは鑑賞者の無知に帰結させていた。また、彼の制作に注目すれば、執筆した時期 1896 年前後で大きな様式的変化を遂げていた。批評の内容を念頭に置けば、その変化はシニャック個人にも向けられた彼の作家性の欠如に対する制作を通じた応答であると考えられる。これらから、シニャックには著作や制作などの様々な活動の内に戦略性を持った行動が確認でき、その戦略性は批評との関連に見出せる結果となった。</p>			
キーワード (5 語) 新印象主義 / ポール・シニャック / 『ウジェーヌ・ドラクロワから新印象主義まで』 / 批評 / ジョルジュ・スーラ			

